

現代用語

自由国民社版

時代の鼓動を反射する
新語・外来語の宇宙

1995

の

基礎知識

【別冊付録】

日本語常識事典

ワープロ時代に対応、オフィスで家庭ですぐ役立つ「ことばの事典」

【巻頭特集】

カラー折り込み地図 社会開発サミットを読むグラフ
小選挙区制と注目選挙区

カラー特集

マルチメディア社会とその通信技術
「月面エネルギー基地」プロジェクト

モノクロ特集

人物ファイル'95

【巻末付録】最新増補改訂1995年版

マス出る外来語略語年鑑



自由国民版'95

Introduction

●カーター元大統領の北朝鮮訪問によって、南北問題は急進展の兆しを見せ、初の南北サミットの実現が確実視された。ところが、その直後に金日成主席が急逝し、南北関係は再び悪化した。しかし、アメリカとの関係正常化を模索する北朝鮮としては、韓国との関係改善を模索せざるをえない。南北首脳会談開催を含め、南北関係は再び好転する可能性も十分にある。

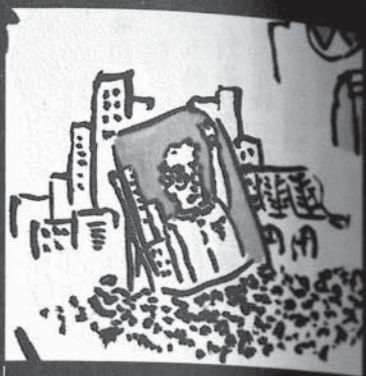
●2年目を迎えて国内の政治改革を進めようとする金詠三政権ではあったが、急激な北朝鮮情勢の変化に直面し、その対応に追われることとなった。今後金詠三政権は、米朝交渉、および北朝鮮新政権の韓国に対する姿勢をみながら、北朝鮮との関係改善を模索し、同時に国内の政治改革を進めるものとみられる。

●NPT脱退以後、国際社会では、北朝鮮の姿勢変化を促すため国連での経済制裁決議への動きが活発化していた。しかし、カーター元大統領の訪問で状況は一転し、北朝鮮は第3回米朝会談の開催を前提として、核開発計画の全面凍結と南北サミットを約束した。ところが、その直後金日成が急逝したため、北朝鮮新政権がどのような姿勢でこれらの問題に望むかが注目される。

小此木政夫

「おこのぎ、まざお」

慶応義塾大学教授

朝鮮問題
用語の解説

小此木政夫

1945年群馬県生まれ。慶応義塾大学法学部政治学科卒業。韓国・延世大学校政法大学院留学、慶応義塾大学助教授を経て、現在、同法学部教授。著書は『朝鮮戦争』（中央公論社）『岐路に立つ北朝鮮』（編著、日本国際問題研究所）『戦後日韓関係史』（翻訳、中央公論社）など。

●金日成死後の北朝鮮情勢の展望
一九九四年七月八日未明の金日成主席の死後、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）では、長男の金正日書記を中心とする体制の整備が着実に進展している。七月九日、労働党中央委員会、国防委員会、中央人民委員会および政務院が連名で金正日を筆頭とする二七三名の葬儀委員会の名簿を発表したとき、金正日氏の後継はすでに実質的に決定されたとみてもよい。

後継者である金正日書記が直面する最初の課題は、父親が着手していた米朝高級会談と南北首脳会談を早期に開催し、進展させることである。もしそれに失敗すれば、米朝、南北関係の険悪化は避けられず、日朝交渉の再開も絶望的になる。金正日の威信は大幅に失墜し、内政の不安定化が進行するだろう。

しかし、発足間もない金正日政権が、そのような対米対決路線を歩むとは考えにくい。また、カーター元大統領と会談した故金日成主席が、核兵器開発の凍結と米朝関係正常化を交換しようとしていた、との推測が正しければ、金正日もその決定を共有していたはずである。

金日成死後、南北間に感情的な摩擦が生まれているが、それにもかかわらず、南北首脳会談も比較的早い時期に実現されるのではないかと思われる。

しかし、短期的にはともかく、長期的にみた場合、北朝鮮の将来は楽観を許さない。対外関係の改善は必ずしも金正日政権の長期的な安定化を保証しないからである。なぜならば、南北経済協力や日朝関係正常化に伴って外部から資本や技術が導入されれば、それが北朝鮮に別の種類の矛盾、すなわち金正日書記が継承しようとしている旧い政治体制と新たに実施される経済開放政策の間の矛盾を表面化させざるをえないからである。

旧い体制に固執して、ヒト、モノ、カネ、情報、の流入を制限すれば経済開放の実施は不可能であるが、それを許せば旧い体制の矛盾が表面化するだろう。政治的不安定化を恐れる指導部は経済改革を抑制し、それがイデオロギーや政治体制の改革に波及することを阻止しようとするだろうが、中国やソ連の前例にみられるように、経済開放や人民生活向上は経済体制の改革を必要とし、経済体制の改革は次にイデオロギーや政治体制の改革に波及せざるをえない。

そうだとすれば、北朝鮮指導部内で保守派と改革派の対立が激化するの、むしろそのような経済開放政策が実行に移されてからのことである。しかし、経済開放が実施され、そのような対立が表面化すれば——それは避けられないことであるが——、実態は深刻である。なぜならば、そのような政策論争は容易に指導部内の権力闘争に転化するし、保守派と改革派のいずれが勝利しても、矛盾はさらに深化せざるをえないからである。



高木正幸
1930年熊本県生まれ。熊本大学法文学部
英文学科卒業。朝日新聞編集委員を経て
現在、帝京大学教授。著書は「新左翼三
十年史」「同和問題と同和団体」「差別用語
の基礎知識」「右翼」など。総務庁地域政
善対策協議会委員も務めた。

学生・青年・ 大衆運動用語の解説

高木正幸 「たかぎ・まさゆき」
.....帝京大学教授

●学生・青年・大衆運動の先端をになう新左翼勢力は、1994年10月現在、22,3派の活動家総数約1万800人で、前年並みを維持、シンパ層を合わせた動員力約1万4800人で、反体制勢力としての一応の力を保持している。しかし活動家内の学生の比率は94年6月現在13.4%、前年よりさらに0.4%下回り、エネルギーの低下がつづいている。

●93年以降の新左翼の活動は、恒久的な目標である「成田空港反対闘争」に加え「反戦・反自衛隊闘争」「反天皇闘争」「関西新空港反対闘争」などでの時限式発射の迫撃弾、金属弾、時限式発火・爆発物など科学機器によるゲリラ活動が主体で、93年中も29件（前年47件）発生、個人テロ性が強まった。ゲリラ事件のほとんどは中核派、革労協解放派によるもので、今後もゲリラ活動が闘争の主体となるだろう。

●成田闘争は、93年5月、政府側が強制収用申請取下げ、二期工事白紙撤回などを確約した「成田空港問題シンポジウム」を受けて、同年9月から「成田空港問題円卓会議」が始まり、94年9月には横風滑走路の凍結を運輸省が提案したが、新左翼勢力の闘争姿勢は変わらず、さらに各地の住民運動へ浸透している。

Introduction

現代用語の基礎知識.....1995

社会／生活

① 狭山事件・石川服役囚仮出獄へ

一九六三(昭和三八)年五月一日、埼玉県狭山市で起こった女子高校一年生中田善枝さん誘拐殺人事件の容疑者として逮捕され、七七年八月、容疑否認のまま最高裁で無期懲役が確定、部落解放同盟が被差別部落出身者への差別裁判として闘争を続けていた石川一雄服役囚(五五)が九四年八月、仮出獄、三一年ぶりに社会に出られることになった。これによって解放同盟・弁護団の再審請求闘争にはずみがつくものとみられ、第二次再審請求に対する東京高裁の審理が注目されることとなった。中田善枝さん誘拐殺人事件は、東京で吉展ちゃん誘拐殺人事件が起こった直後に発生、身代金を取りに来た犯人を取り逃がすという、吉展ちゃん事件の二の舞いを繰り返した警察の失態で注目された。当時二四歳だった石川服役囚は事件二日後、窃盗容疑で別件逮捕され、善枝さん殺人容疑で再逮捕後、「犯行」を自供、六四年三月、浦和地裁で死刑の判決を受けた。その後「取り調べ警官に犯行を認めれば一〇年で出してやるといわれ、信じ」と東京高裁の二審の法廷で自供を取り消し、無罪を主張しつづけた。

しかし七四年一〇月、東京高裁は裁判長が五人も交代し、八〇回を越える審理の末「大筋において自供は信用できる」として一審の死刑判決を破棄したものの、無期懲役の判決を下した。七七年八月、最高裁も解放同盟・弁護団が出した口頭弁論、事実審理、全証拠の提示などを要求する上告趣意書を取り上げず、二審の判決を支持して上告を棄却、無期懲役が確定した。最高裁は決定の中で、弁護団側

が出していた被害者中田善枝さんの万々筆やカバンの発見の模様などの疑問につき「一部に証拠上なお細部にわたって解明されない事実もあるが、全関係証拠を総合的に判断すると合理的に確度の高いものとして犯人とみなすことができる」と証拠上完全に立証された結果の決定でないことを述べていた。

部落解放同盟・弁護団は、被差別部落出身の石川服役囚に当初からマトを当てた、部落差別に基づく予断と偏見に満ちた不当な差別捜査、差別裁判であるとして、七〇年の全国大会で「無実・公正裁判要求」、七四年の全国大会で「差別裁判糾弾」の運動方針を決め、以来「狭山差別裁判闘争」を三大闘争目標の一つに掲げて組織をかけた運動として展開してきた。この解放同盟の闘争には新左翼各派、労組も共闘し、年々開かれた抗議の大会は集会として最大規模のものとなった。

弁護団は、脅迫状の筆跡鑑定など二七点の新証拠を理由として異議申立書を提出して再審を請求、石川・元被告の自供は当時現場近くの桑畑で作業していた農夫の証言の状況と一致しないなどの再審請求の意見書を提出したが、いずれも棄却された。その後石川服役囚、解放同盟、弁護団は二度目の再審請求を行い、東京高裁で審理継続中。仮出獄は、八月で無期懲役刑の服役囚に仮出獄が認められる平均年数の一七年を経過したことによるとみられる。一方、全解連は狭山事件について「石川・元被告を有罪とする証拠に多くの疑問があったとしても、無罪を決定的に証明する証拠もない」との見方をしている。



深谷昌志
1933年東京都生まれ。東京教育大学大学院博士課程修了。現在、静岡大学教授、教育学博士。著書は『孤立化する子どもたち』『子ども考現学』『ファミコンシンドローム』『無気力化する子どもたち』など。

青少年問題

用語の解説

深谷昌志 「ぶかや・まさ」……………静岡大学教授

Introduction

●いじめは下火になったといわれる。しかし、児童生徒の不登校は増加傾向をたどっているし、高校中退率も歯止めがかからない状況が進んでいる。暴力行為を伴うような反社会的な非行は減少しているものの、精神的な衰退を予感させるような非社会的な逸脱行為が慢性化している。

●そうした一方、94年度の文部省調査によると、学習塾通いをするものは小5=31%、小6=42%、中学=60%に達する。全国平均で中学生の6割が通塾している状況は正常とはいいがたいものを感じる。

●全国的に子どもたちの「過教育」状況が進み、子どもたちは望みの進学を目指して頑張っている。しかし、友と群れ遊びすることなく塾に通うか、家の中で孤独な時を過ごす。そうした生活が続くので、子どもたちは生活のリズムを崩し体調も悪化してくる。

●しかも、受験戦争の勝利者はほんのひとにぎり、その他の多くの子どもたちは思うような成果をあげることができず挫折感を抱く。そして、目標を喪失した多くの子どもたちが無気力化し、時として不登校などへ走る。子どもたちの成長のスタイルの歪みが気かりになる。

子どもの成長のスタイル

友と群れて遊ぶことなく、家の中でテレビやマンガを見て、孤立した生活を過ごす。そうした生活が、青年になっても続く。なにひとつ不足することなくすべてを与えられて育っていく。そうした環境が無気力化した子どもを育てている。

◆子ども時代の喪失

子どもは群れを作って遊び、いつも活発に動いていた。こうした子どもらしさが見受けられなくなった。そうした変化に気づき、かつての子どもとの対比の中で、現代の子を理解しようという動きが生ずる。アリエスの「子供の誕生」(みすず書房)が、そうした子ども研究の先駆的な著作である。そのほかにも、マリイ・ウインの「子ども時代を失った子どもたち」(Children without Childhood 一九八一年、サイマル出版)、「子供はもういなくなった」(The Disappearance of Childhood 一九八二年、新樹社)の訳書など、

◆子どもたちの巣籠り

放課後の子どもたちは、けいこごとや学習塾へ通う以外、子ども部屋のみで、テレビを見るか、マンガを読むかして、夕方の時を過ごしている。こうした姿に、子どもたちの巣籠りを連想する。しかも、そうした巣籠りは、子ども時代にどまらず、青年期にも持続される。中野収法政大学教授の指摘する「カプセル人間」(透明のカプセルに入って自我を守る)や、笠原嘉のいう「オブローモフ」(小説の主人公。豊かさの中でやる気を喪失するさま)、そして「トランスボゾン」(移動する場によって変色するさま。適応力の大きな若者を指す)などの提起もその一例であろう。ウオーグマンやパソコン、カタログ雑誌など、青年たちは自分ひとりで完結できる自閉文化の商品にかまわって生活している。

◆引きこもり

友だちなどとの人間関係がわずらわしく、一人でひきこもると精神的な安定を得られる状況。人間関係の持ち方が未成熟で、引きこもらないと安心できないタイプ。不登校の子などに認められるのはたし

に在る若者なども「引きこもり」に属する。二〇代の男性に多く、「人と会うのが怖い」「外出すると気分が悪くなる」などの症状を示す。その人の育ち方に問題があるので、治療が難航することが多い。

◆第二次反抗期 (Holtzai, 20)

従来の発達理論によると、中学生となる頃から第二次反抗期が始まる。それまで親に依存していた子が自立しようとする時、親からの影響が大きくなるだけに、親の存在が成長の妨げになる。そこで親に生理的な反発を示す。それが第二次反抗期で、これは、自立する過程でみせる一過性の反抗のスタイルで、子どもが成長するために避けて通れないと考えられていた。このところそうした反抗を見せる子どもが少なくなりつつある。父親にやさしさがまして、子どもの反発をそそらなくなった。あるいは、母親の権威が増し、母の存在を軽視できなくなったなど、反抗期の喪失を促進した背景は多様であろう。

◆発達の課題 (developmental task)
アメリカの心理学者ハビーガーストの提起した考え方で、



稲垣吉彦
1930年神奈川県生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業。NHK放送文化研究所主任研究員を経て、現在、文教大学情報学部教授。著書は『入門マスコミ言語論』最近日本語事情(大修館書店)ことばの四季報(中央公論社)自己表現の技術(PHP出版部)『流行語の昭和史』(読売新聞社)ほか。

ワードウォッチング用語の解説

稲垣吉彦 「いながきよしひこ」……文教大学教授



●「ワードウォッチング」という新造語もかなり定着してきた。ワードウォッチングのもじり造語で「言語観察」といった意味である。したがってこの欄は言語観察人のこの一年の採集記録というわけである。流行語というと、厳密にはごく限られてしまうので「世相語」という用語を作ったことがある。70年代の採集記録を上梓して『現代世相語』と書名にしたのが80年5月、版元は創拓社である。本欄はその延長で、いわば「世相語コレクション」である。この年だけで消えてしまうことばも載せてある。ともかくここに収録されたことばの窓からこの一年の世相の一端を概観していただければと思う。

●もちろん、たとえば「就職氷河期」のように今後ずっと記憶され世相史に残るであろうことばも収録してある。本誌の「風俗・流行」の他項と関連させながらお読みいただきたい。

●「流行語は時代・世相の波がしら」と言ったのは大宅壮一氏だった。幅を広げていけば「世相語は時代・世相の索引語」だろうと思う。その採集・記録のためのウォッチングである。ある期間を区切ってまとめてみると、これは「世相語による世相史・大衆史」になるはずである。



おぼえたい ポジティブ・ワード

◆人にやさしい政治

村山首相が七月一八日、衆院本会議で就任後初の所信表明演説を行った中でのことばで、同政権のモットー。「国民の前に開かれた議論」を政権運営の基本とし、「人にやさしい政治」を掲げ、国家像に関しては「強い国よりもやさしい国」を目指すとした。

◆3H産業

不況脱出にはずみをつける三種のリーディング産業で、ハウス(住宅)、ホビー(趣味)、ヘルス(健康)。

◆情報溝

建設省は全国の国道や地方道の地下に光ファイバーを収容する情報溝(ニューキャブ)を整備する方針を決めた。日本版情報ハイウエイ構想支援のねらい。二世紀初頭までに四〇兆円をかけて四〇万*を敷設したいとしている。

◆パワーセンター

食品や家電などの、多くの安売り店が一方所に集まった新型ショッピングセンター。地価の安い都市郊外で開店して

いる。

◆カジュアルデー

週に一回は自由な服装での出社を認める日。スーツにネクタイというサラリーマンの制服から脱却しようという柔軟な会社が増えている。

◆イチロー効果

年間二〇〇安打を記録したイチロー選手による観客動員効果。また自由潤達な行き方をする若い選手による球界世代交替の空気もさす。同世代の巨人松井選手もイチローに代表されたかたちだ。

◆振り子打法

年間二〇〇本安打の大記録を立てたオリックスのイチロー選手の、右足をゆっくり捕手の方へ引きながら間をとり、しかも上体を崩さずに打つ変則打撃フォーム。

◆活私奉公

最近の若者現象語。仕事と私生活の中間に、もう一つ別の世界を持ち、できればその分野でも自己主張したい人がふえてきた。個人の楽しみや家庭生活を大切にしながら、仕事や、もう一つの世界を通じて社会貢献することで自らのPI(パーソナル・アイデンティティー)の確立を目指す。

◆オープンビープル

博報堂生活総合研究所の「生活予報」九四年版の中のこと

ば。心や行動が開かれ、他人に左右されることなく自分の生活を自分で律することができる人間。景気低迷の影響で、企業も消費者も縮みがちといわれるが、生活と経済を切り離し、不況の中でも生き生きと暮らすオープンビープルがこれからの消費を引っ張るといふ。

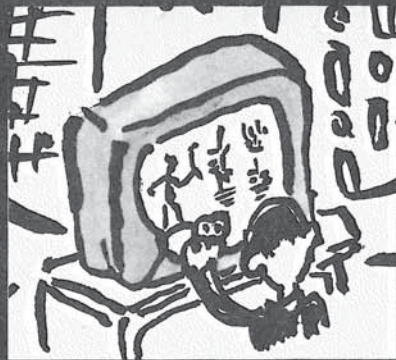
◆自愛

電通が発表した九三年の話題商品・ヒット商品のキーワード。自分の体と心の調子を整え、先行きが不透明な時代を乗り切ろうとする「心身愛」。

ニンジン飲料などの健康飲料や植物性せっけん、電動歯ブラシなど。次が家庭、学校や会社、地域などとの絆が揺らぐなかで、群れて行動しようという「関係愛」。ポケットベル、地域限定ビールなど。第三が日常生活での便利さ、快適さを求める「生活愛」で、トイレのにおいを消す装置や、おいしく炊ける電磁加熱方式の炊飯器など。

◆すったもんだがありました

宮沢りえのCMから流行語化。「アノことを言っているな、と思わせておいて、次にりんごをすっている映像で商品の説明でもあることをわからせる、いわゆるダブルミー



高山英男

1930年大阪府生まれ。横浜国立大学経済学部卒業。毎日新聞社、中教出版、新評論を経て、子ども調査研究所所長。著書には『現代・子どもの世界』『子どもの昭和史』『中・高校生の本と生活』など。

子ども文化

用語の解説

高山英男 「たかやま・ひでお」

子ども調査研究所所長



●「合計特殊出生率」は1.46となり、ついに1.50を割り込んで未曾有の少子社会が現出した。この少子社会の中で、「戦後を知らない」若い世代が親になり、「平成ニューファミリー」を形成することで、親子関係や育児観も質的に転換した。育児まんがから育児ノウハウを学ぶ「ヤンママ」も出現している。

●コミック誌の中で発行部数650万部と独走を続ける「週刊少年ジャンプ」と「幽遊白書」に代わって「スラムダンク」が目玉となり、「キャプテン翼」もカムバックして、スポーツまんがが人気の主流に。一方、少女まんがでは、「セーラームーン」に続いて「魔法騎士レイアース」が登場。従来の少女の内面のドラマを描く少女まんがは退潮し、テレビゲームのRPG風の冒険ファンタジーが人気の中心になりつつある。

●ファミコンは10周年を過ぎて、子どもの日常的な遊び文化に定着した。32ビットの次世代ゲーム機が続々と登場、マルチメディア時代への模索が続いている。このホビーのハイテク化の中で、一般玩具は苦戦を強いられているが、「シバカリくん」や「虫入りキャンデー」など奇想天外の発想のホビー財に注目が集まっている。



子どもと家族

◆合計特殊出生率と少子社会

近年少子化を表す指標として、「合計特殊出生率」という用語がよく用いられる。これは「一九〇四歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、「ひとりの女性が生涯に産む子どもの数の平均」を表している。この数値が二・〇八を切ると人口減につながる」とされている。この合計特殊出生率が一九八九（平成一年）に一・五七を示し、「一・五七ショック」などといわれて、少子化が大きな社会的問題となった。

厚生省が発表した「平成五年人口動態統計」によれば、合計特殊出生率は一・四六となり、人口一〇〇〇人当たりの出生率も九・六を示し、一九九九（明治三十二年）に人口統計をとり始めてから史上最低を記録した。統計によると、九三年一年間に生まれた赤ちゃんは一八万八三一人で、第二次ベビーブームの頂点だった七三（昭和四八）年の二〇

九万人台の出生数と比べてその五六・八％にまで落ち込んでしまった。しかし九四年に入って出生数はやや増加傾向を示しており、厚生省は今後やや上昇に転ずるのではないかと予測している。

◆平成ニューファミリー

一九五五（昭和三〇）年代以降に生まれた世代の親とその子どもによって成り立っている若い家族。「経済白書昭和三一年版」は「もはや戦後ではない」と戦後からの脱却を宣言した。団塊の世代が「戦争を知らない子どもたち」といわれたとすれば、平成ニューファミリーは「戦後を知らない子どもたち」ということができる。この世代は、高度成長期以降の大衆消費化・ファッション化・ハイテク化・国際化の時代の波の中で成長し、それらの時代の精神を体現する新しい世代としていま子を持つ親となった。

この平成ニューファミリーの親は、先行世代の親と異なった生活価値観を持っている。彼らが物心ついたときは、テレビ、冷蔵庫、洗濯機など基礎的な家電のインフラはすでに家庭に整備されていた。こうして第一に、彼らはハイテク機器を利用することによつ

て、面倒な作業や努力のプロセスを抜きにして、情報や家事労働の成果を獲得することができる。つまりこの世代はインプットとアウトプットが直結する「ノン・プロセス・エイジ」ということができる。第二にこの世代は、青春期に華麗なファッション革命の洗礼を受けたので、親子の服飾だけでなく、住居のインテリアから交際のギフトまで、日常生活の全領域でおしゃれのセンスにこだわる「ファッションナブル・エイジ」である。第三に、この世代の親子はかつての親子のように異なった価値観の葛藤・衝突を繰り返すことはない。今日の親子はテレビゲームやコミックスを共に楽しみ、キャンプやテーマランドなどのアウトドアレジャーの楽しみを共通体験する「共遊びファミリー」である。

◆ヤンママ

ヤンキーな、ヤンチャな、ヤングっぽい母親のこと。元暴走族などツッパリの母親、十代の母親、「未婚」の母親、バツイチの母親など、「優等生ママ」の枠からはみ出した若い母親たちの交流の場を作ろうと、従来、暴走族などツッパリの若者の交流誌「チャップロード」やレディスコミ

時代を反映したかのような無関心派のこのセリフが流行語となる。紋次郎の生地上州三日月村は架空の地だが、のちに群馬県新田郡に「歴史の里・三日月村」が誕生した。

[昭和47年]



大塚陽子
ファッション・ジャーナリスト。婦人生活社「服飾編集部」、モード・エ・モード社を経てフリーに。現在、NHKくらしのジャーナルのファッション情報を担当するのを初め、CREA、日経トレンディなどで、パリ、ミラノなどのコレクション取材報告を中心に活躍中。

ファッション！ 流行用語の解説

大塚陽子「おおつか・よひこ」……ファッションジャーナリスト

Introduction

●1994年8月、長引いた経済不況からやっと脱出し、緩やかな上昇ラインを描きはじめたという政府見解が発表されたが、まだまだ経済低迷の実感を拭いきれないのが正直なところである。

●しかし、ファッション・ビジネスも再び動き始めたという兆しはある。各企業が積極的に実施した価格設定の見直し、流通経路の再検討などが着実に成果を上げ始めたと見ても良い。

●ファッション動向としては、カジュアル化と共に、自分が既に持っているものに、もう一つだけ新しいものをプラスして、ファッションブルに着こなす「着足しファッション」が定着しつつある。その代表が、スリッパ・ドレスの人気である。暑い季節には素肌そのまま着ている人も見受けたが、Tシャツやブラウス、あるいはランニングドレスの上に重ねる着方が一般的。

●また、子供サイズのような小さめのTシャツをわざときつきの感じで着てしまうのも若者を中心として広がり、秋冬はその延長として小さめのジャケットやコートなども登場している。

●また、ワンブランド、ショップではなく、同じようなテイストの数人のデザイナーの商品を品揃えするショップが増えつつあるのも興味深い。

◆メリット・スーツ



◆ジャポニスム (Japonisme) me (仏)
ジャポネズリともいい、日本趣味のことを指す。そもそもはバリ万博を機にヨーロッパでおこった日本的なものへの傾倒を表す。当時は浮世絵をはじめ、きものに代表される平面的な構図、織りや染め、素材使いなどがもたらした影響は大なるものがあった。その後、一九八〇年代初頭にはケンゾーやイッセイによるクリエーションが話題を呼んだ。九四年秋冬のコレクションではヨージ・ヤマモトのきものと西欧風アイテムの組み合わせ、ジョン・ガリアーノの帯のアクセント、コンプリチェのゾウリなどが話題となり、再びブームを巻き起こした。

◆カルソン (Calson) (仏)
本来は男性用のパンツやズボン下などの下着の意味だが、タイトのように脚にピッタリとフィットするパンツのこと。日本ではスパッツ (spats) と呼ぶことのほうが多い。このスパッツはバレエの練習用などに用いられていたものだが、スキー・パンツがタウンにも用いられるようになった

◆カヤスケット (Caquet) (仏)
狩猟の時に被るひさしのついたハンティング・キャップのこと。カスケットともいう。日本では鳥打ち帽と呼ぶ。スポーティーな婦人用としても用いられている。カジュアルな装いや一九七〇年代風なモッズ・ルックの台頭とともに、再び注目されてきた。無地やチェックの布製のもののほかに、レザーやスエードのものなども人気がある。

(Mertl Suit)
コーディネート・スーツ (Coordinate Suit) ともいう。一揃いで、何通りもの着こなしができるように工夫された女性用スーツをいい、従来のスーツと比較してより価値感が高いことから名付けられた。大きく二つのジャンルに分類することができる。その一つは、衿や袖口が取外し可能になっていて、その着脱によってまったく異なった表情を描きだすデザイン。もう一方は、さらにワンピースやパンツ、あるいは替え衿やカフスをセットにしているもので、後者の場合は、より付加価値があるところから「スーパー・メリット・スーツ」と称される。不況の影響もあって、上代三〜七万円という手ごろな価格帯と、手軽な着まわし感が受け、OLなどに根強いファン層を形成している。

◆スイッチャブル・スーツ (switchable suit)
上下別売りのスーツをいう。自分のサイズにあわせて、上着とズボンのサイズを自由に選べることからこの名がついた。注文服の場合は問題ないが、既製品の場合、上下別売りにすると、売れ残りの処理に困るところから、導入が遅れていたが、景気の低迷や、安売りに紳士服店の攻勢に対処する意味もあり、実施されるようになった。



森 秀男

1925年東京都生まれ。早稲田大学文学部卒業。東京新聞文化部記者を経て、現在、演劇評論家、日本大学芸術学部、郡山女子大学短期大学部講師。著書は「劇場へ」「現代演劇まるかじり」(晶文社)「夢まぼろし女剣劇」(筑摩書房)など。

現代演劇用語の解説

森

秀男

「もりひでお」

演劇評論家



●地方自治体による劇場建設が全国各地で進んでいる。かつて多目的ホールと呼ばれながら、実質的には無目的ホールに過ぎず、大きさだけを誇った建物がつくられたのに比べれば、演劇公演のためのホールということがはっきりしているだけでも進歩にはちがいない。しかし、建物としての劇場はできても、その事業のほとんどは貸館で、自主企画といっても、ほかで製作された作品を買いつける場合がほとんどである。劇場は管理上の責任者がいるだけで、芸術上の責任者は存在せず、専属の劇団を持つことなど奇跡に近い。しかも劇場の管理は規則づくめで、舞台芸術の創造という仕事への無理解がまかり通っている。自治体が税金で建てた施設だから公共劇場だと思っただけで、その地域にとって不可欠な芸術文化活動のための施設だからこそ公共劇場なのだという基本点に立ち、あらゆる努力を傾けなければならない。

●宝塚歌劇が80周年を迎えた。女性だけのレビュー集団である特異性は好悪わかれるところだが関西を拠点地にこれだけ長い歴史を持ったことには驚かされる。最近の人気の高まりが、ミュージカルの盛況と結びついた現象であることも見逃せない。

Introduction

現代用語の基礎知識……1996

文化・芸術

95年の最新語

◆宝塚歌劇80周年

未婚の女性だけで編成されたミュージカルとレビューの集団としては特異な性格を持ち、多くの熱烈な女性ファンに支持されてきた宝塚歌劇が、八〇周年を迎えた。宝塚少女歌劇の第一回公演は一九一四(大正三)年四月に行われた。阪急電鉄の前身である箕面有馬電気軌道の小林一三専務が、レジャー施設として作った宝塚新温泉への余興として発案、室内プールを改造したパラダイス劇場でオリジナルの歌劇を上演したのが始まりである。その後、歌劇場、新宝塚を経て二四年には小林一三の念願だった宝塚大劇場(定員三〇〇〇人)が開場、翌年にはそれまでの花組・月組に雪組が加わり、毎月公演が実現した。二七(昭和二)年には、パリ帰りの岸田辰弥が作った日本の最初のレビュー「モン・パリ」が評判になり、三〇年の白井鉄造作のレビュー「パリセット」でさらに人気を高めたことで、宝塚の方向が定まった。宝塚のシンボルとしていまも愛唱される「すみれの花咲く頃」は、このときの主題歌である。三三

なり、松竹少女歌劇と競い合っただけで、黄金時代を築いた。男役スターは若い女性ファンの憧れの的で、「男装の麗人」ということばも生まれた。三八年に最初のヨーロッパ公演、翌年にはアメリカ公演を行ったが、四〇年には時局を考慮して宝塚歌劇と改称、戦争の激化で大劇場は閉鎖された。

戦後の復興期を代表する白井鉄造作『虞美人』は、五一年に大劇場で三カ月続演し、六〇年の高木史郎作のショー『華麗なる千拍子』もヒットして、第二の黄金時代とよばれた。宝塚の歴史のなかでの最大のブームを巻き起こしたのは、七四年に初演された『ベルサイユのばら』である。原作はフランス革命を題材にした池田理代子の長編劇画で、多くの少女ファンに親しまれていたが、植田紳爾脚本で演出に長谷川一夫を頼んだ舞台は、熱狂的な人気をよび、続けて二つの異なるバージョンがつくられた。二年間にわたる「ベルばら」ブームは、一四〇万人に近い観客を集め、一つの風俗にさえなったが、同時に宝塚のファン層をひろげることにもつながったのである。宝塚の舞台は、男役がたえず

トップスターであり、男役の準トップと娘役のトップを加えた三人がドラマの骨格をつくってゆく方式が一貫して守られてきた。トップスターの退団によって、準トップが新しいトップの地位につくという歴史がくり返されるわけだが、八〇年代以降、トップの活躍する期間が短くなり、交替が早まる傾向が目立つ。宝塚出身の女優は昔から多いが、最近ではトップの地位を極めたスターが宝塚の枠を越えた世界への早い転進を考えるようになったともみられる。そのためトップスターのスケールが小さくなったと危ぶむ声もあるが、そういう例は以前に何度もあった。宝塚のスターシステムは、スターに依存するよりも前にスターをつくり出すシステムとして機能している。スターの交替とともにファンも入れ替り、たえず若い観客が加わっていることが宝塚の強みである。

◆一〇年目の「この子たちの夏」

演劇制作体の地人会(木村光一代表)が一九八五(昭和六〇)年から毎年夏に各地で上演を続けてきた木村光一構成・演出の朗読劇「この子たちの夏」一九八五・ヒロシマナガサキ」が一〇年目を迎え

資源有限時代 先にローマクラブが、地球資源は枯渇に向かいつつある、と世界に警告した。これを受けて福田赳夫総理は、施政方針演説で次のように強調した。——遠くない将来に一部の資源が地球からなくなろうとし

現代舞踊用語の解説

桜井 勤 [ちかひ・しん] ……舞踊評論家
 國吉和子 [くによし・かずこ] ……舞踊評論家

Introduction

●1994年は海外への進出が多くあり、例年通り外来のバレエやモダンダンスが盛んな年であった。国内は松山バレエ団、牧阿佐美バレエ団、東京バレエ団始め多くの公演があり、現代舞踊の公演は、個人単位まで含めると数多い。
 ●海外進出では、大野一雄、勅使川原三郎をはじめ舞踏派、ヌーベルダンス系統の人達の活躍が目立つ。世界の一流バレエ団に入団している人も数多くなり、国際交流は深まって来ている。
 ●ロシアの各バレエ団やグループの来日公演は93年に続いて多いが、ノイマイヤー、キリアン、ベジャールらのバレエ団公演やA・エイリー、M・カニングハムの舞踊団が公演をした。
 ●第7回世界バレエ・フェスティバルで超一流のスター達が来日、キリアンは東京バレエ団に世界初演の作品を創り、ベジャールは坂東玉三郎と共演。
 ●ヨーロッパからローザスははじめジャン＝クロード・ガロッタ、レスキスなど舞台芸術の新しい波といわれる人達の来日公演が相次いであった。
 ●カナダから9月にマーギー・ギリスが来日公演をみせたほかトレント・ガンスシアター・バレエ、プリティッシュ・コロンビアなど代表的なものが95年にかけて来日公演をみせた。

◆バレエ(Ballet)
 イタリアの宮廷から発生し、フランスに移り、さらにロシアで発達した舞踊劇をいう。
 一八世紀のフランスの舞踊家ノヴェールの出現により舞台展開に劇的な形式が初めて与えられ、ロマンティック・バレエを経て、西欧より移植されたバレエはロシアにおいて開花した。クラシック・バレエ

エとして今日も盛んに各国で上演されているチャイコフスキーの三大バレエ曲「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」などいづれもロシアで初演された。一九〇九年、ディアギレフの「バレエ・リュス」が登場、ストラヴィンスキーをはじめ数々の作曲家、ピカソほかの美術家を動員し、舞踊家としてはニジ

ンスキー、フォーキン、カルサビーナらの参加をえて数多くの近代バレエを確立した。日本におけるバレエは、明治の末、帝国劇場歌劇部教師として来日したG・V・ロシーがダンス・クラシックの基本を教えたのに始まるが、本格的なバレエの発達はロシアから亡命してきたエリアナ・パプロバによって促進され、

門下の東勇作、服部智恵子、橋秋子、大滝愛子、島田廣、貝谷八百子らが基礎を創った。第二次大戦後「白鳥の湖」全幕が合同公演により初演(演出、振付小牧正英)された。

以後小牧正英、服部・島田、谷桃子、貝谷八百子、松山樹子、法村・友井、牧阿佐美の各バレエ団が古典バレエの日本初演を競い、その後チャイコフスキー記念東京バレエ団、スターダンサーズ・バレエ団、東京シテイバレエ団など数多くのバレエ団が生まれた。一九五八(昭和三十三年)設立された日本バレエ協会は、その後全国支部を形成し、バレエの推進、若手の養成に力をつくし、森下洋子のバルナ国際バレエ・コンクールでの金賞受賞以来、若手ダンサーの海外コンクールでの受賞が続き、外国バレエ団への入団者も増えた。文化庁などの助成もあり、各バレエ団の海外公演もさかんである。

◆モダン・バレエ(Modern Ballet)

クラシック・バレエに対してマイムやグラン・パ・ド・ドゥなどの約束を廃して自由に創作するバレエ。その先駆をなしたのはフォーキンやニジンスキーである。「バレエ・リュス」の後期に登場した

バラシンやリファールはアメリカやフランスで新しい考えのバレエを創った。心理的バレエを創ったチューダー、「檻」や「ウエストサイド物語」のジェローム・ロビンスはアメリカで活躍し、ヨーロッパではジョン・クランコについてモーリス・ベジャール、ローラン・プティ、ジョン・ノイマイヤー、イリ・キリアンらが出ている。日本の創作バレエでは島田廣、関直人、横井茂、堀内完、高橋彪、牧阿佐美、小林恭、佐多達枝、小川亜矢子、橋浦勇らがあり、若い世代では法村牧太郎らに続き鈴木稔、後藤久美子らが期待されている。

◆モダン・ダンス(Modern Dance)

ダンス・クラシックに反発して二〇世紀に発生したダンスの一種。アメリカに生まれたいロイ・フラー、イサドラ・ダンカン、ルース・セント・デニスらのほか、ドイツではラバン門下のマリー・ウイグマンがその先頭に立った人たちである。デニシオン・スクーレルからはモダン・ダンスを確立した人を多く生んだ。最も大きな存在はマーサ・グラハムで、一五〇に及ぶ作品を創り、コントラクション(収縮)

とリリース(解放)の舞踊技法を確立した。ウイグマンらのノイエ・タンツは一九三三年以降、ナチスの台頭で一時は弾劾、追放されたが、第二次大戦後、エッセンのフォルクヴァンク学校にラバン門下の「緑のテーブル」で有名なクルト・ヨースが復帰、その門下からピナ・バウシュらが新しい表現主義の踊りを受けついでいる。日本のモダンダンスは大正から昭和初期にかけて石井漢、高田雅夫・せい子に続いて江口隆哉・宮操子がウイグマンに学んだ成果を定着させた。戦前から活動してきた石井みどり(漢門下)、平岡斗南夫(高田門下)に続き、戦後、石井門下に石井晶子、石井かほる、江崎司、折田克子、高田門下に小沢恂子、安藤哲子、三輝容子、山田五郎門下に山田奈々子らを輩出した。江口隆哉門下の江口乙矢をはじめ、西田堯、池田瑞臣、庄司裕、美二三枝子、金井美三枝、小森敏門下の藤井公・利子、津田信敏門下の若松美黄、津田郁子、渥美利奈らが活躍し、その他グラハム舞踊団で活躍し、帰国後活動をしているアキコ・カンダや竹屋啓子らがいる。

◆フラメンコ(Flamenco)
 スペインのアンダルシア地方

ら長くて15カ月くらいで脱却した。しかもこれまでは不況でも個人の消費支出は着実に伸びていたが、トンネル不況では伸びていない。しかし、トンネルには出口が必ずあるという期待感も含まれている。[昭和52年]



川本信正

1907年東京都生まれ。東京商科大学（一橋大学）卒業。読売新聞記者などを経て、現在、スポーツ評論家。著書は『スポーツ現代史』『スポーツのあゆみ』『スポーツ賛歌』『人はなぜ走るのか』など。

スポーツ用語の解説

川本信正「かわもと・のぶまさ」……………スポーツ評論家



●1995年、日本で開催される最大の国際イベントは、8月23日から9月3日まで、福岡で行われるユニバーシアード大会である。その一方で話題となるのは、96年のアトランタ・オリンピックであろう。

●夏と冬のオリンピックが隔年開催になったが、アテネで第1回大会が開かれた1896年を第1年とするオリンピック暦に変わりはなく、第26オリンピック年の96年は、アテネから100年目の記念の年である。オリンピックは84年のロサンゼルス大会から、スポンサー資金による民営方式となり、以来ソウル、バルセロナと回を重ねることに競技種目も増えて、肥大化が目立ってきた。テレビ放映権料はIOCの最大の財源になっているが、その半面視聴率を重視するテレビ局の大会運営に対する干渉も強まり、“テレリンピック”という新語も生まれた。肥大化防止はIOCの重要な課題である。

●国内では、日本体育協会が多年の放漫財政で、94年度の累積赤字は6億円となっている。不況の影響でスポーツ振興資金の増額もなく、スポーツ活動を停止したり、スポンサーを撤退する企業も増え、日本のエリートスポーツは地盤沈下の危機に見舞われている。

スポーツ・レジャー

95年の最新語

◆アトランタ・オリンピック (26th Olympic Games Atlanta '96)

一九九六年の第二六回オリンピック大会は、オリンピック開催一〇〇年を記念して、七月一日から八月四日までの一七日間、アメリカのアトランタ市(ジョージア州)で開催される。競技数は二六で、新種目としてバレーボールでビーチバレー、サッカーで女子、自転車でマウンテンバイク、陸上で女子三段跳びなどが追加される。七万五〇〇〇人収容のメインスタジアムは九五年秋完成の予定。

◆シドニー・オリンピック (27th Olympic Games Sydney 2000)

一九九三年九月二三日、モントカルロ(モナコ)で開催された国際オリンピック委員会(IIOC)総会で、二〇世紀最後の二〇〇〇年夏季オリンピック大会をオーストラリアのシドニーで開催することが決まった。立候補都市は、北京、ベルリン、マンチエスタ、イスタンブール、シドニーの五都市で、サマランチ会長を除く出席八九人の委員が、憲章の規定により、過半数を獲得する都市がでるまで

最下位の都市を除いて投票を繰り返し、三回目までは北京が一位でシドニーが二位だったが、四回目の決選投票で棄権一票を除き、四五票対四三票のわずかに二票差で逆転、シドニーが開催都市に決定した。シドニーは「グリーン五輪」を標語に、環境保護に留意した施設計画が評価され、北京は天安門事件の人権問題に対する欧米の非難がマイナスイヤになった。シドニー五輪の会期は九月一六日から一〇月一日までの一六日間、二五競技が行われる予定。

◆二〇〇二年冬季オリンピック

二〇〇二年の第一九回冬季オリンピックの開催地には、アルマトイ(カザフスタン)、グラーツ(オーストリア)、ハカ(スペイン)、エステルスンド(スウェーデン)、ポプラトタ(スロバキア)、ケベック(カナダ)、ソルトレークシテ(アメリカ)、シオン(スイス)、ソチ(ロシア)、タルビシオ(イタリア)の一〇都市が立候補しており、九五年六月、ブダペスト(ハンガリー)で開かれる第一〇四回IOC総会で決定する。IOCは今回から、IOC理事会、IF(国際競技連盟)、NOC(各国・地域のオリンピック委員

会)の代表者九一二人で評価委員会を構成し、各候補地の施設、環境、交通事情などを調査し、九五年一月までに四都市を選考して、IOC総会へ報告することになった。この新方式は今後、夏、冬両大会にも適用される。

◆リレハンメル冬季オリンピック (17th Olympic Winter Games Lillehammer '94)

第一七回オリンピック冬季大会は、一九九四年二月一二日から二七日までの一六日間、ノルウェーのリレハンメルで、夏と冬のオリンピックが分離開催が決まった最初の大会として開催された。六七カ国・地域から一七三七人の選手(うち女子五二一人)が参加(IIOC発表)、六競技六一種目が行われた。「地球にやさしく」を標語に、環境との調和を図った施設が好評で、開会式ではサマランチIOC会長が「戦いをやめ、武器を捨てよう」と平和をアピールし、内戦のボスニアから参加した九人の選手団と八四年の開催地だったサラエボ市民への同情と激励が高まった。金メダル順位は、ロシア(一一)、ノルウェー(一〇)、ドイツ(九)、イタリア(七)、韓国(六)で、日本は五九選手

ひたすら「忍耐と辛抱」を貫く。視聴率は最高62.9%、平均でも52.6%を保った。じつとがまんすることを「おしんする」といい、この年辛抱して横綱になった隆の里は「おしん横綱」と呼ばれた。 [昭和58年]

1995年外来語・略語年鑑

マスコミに出る外来語・略語・総解説

●執筆——堀内克明〔ほりうち・かつあき〕……明治大学教授

◆——外来語の平板アクセント

最近、日本語のアクセントが平板化するきざしが見られる。しかし、耳なれた日本語では、アクセント平板化は異様に響くので、特に外来語でその実験をしている様子がかがえる。例えば、スポーツのチームはチにアクセントを置き、街の少年グループの意味では、チイ(イ)ムというように全体を平板化して、区別する傾向がある。ところが、スポーツのチームも平板的に発音する人が始めている。同様に、専門家や業界の特色をはっきりさせるためか、平板アクセントを一貫して使用する傾向が目につくようになった。例えば、アパレル業界では、アイテム、スカート、ジャケット、メンズ、レディース、トップ、ボトム、デザイナーなどを、頭にアクセントを置かないで、平板的に発音する。その方が業界人らしく聞こえるが、逆に本来のアクセントで言うと新人くさかったり、素人っぽく聞こえてしまう。デザイナーの名なども業界人は平板化して発音するのが一般的となっている。

◆——日本語からきた英語

20年ぶりに全面新版となった『小学館ランダムハウス英和大辞典』(第二版)(1994年)には、巻末に906語の日本語に由来する英語が一覧できるように収められている。資料調査によると英語に借用された日本語は5000語を超すが、そのうちの906語が選ばれている。また、全面改訂された The New Shorter Oxford English Dictionary (1993)にも、330語の日本語由来の英語が収録されている。近年は、日本語から英語への借用語はフランス語からの借用語に次いで第2位となっている。

借用された日本語の主な分野は、次のようなものである。動植物名、園芸品種名、化合物、薬品、病名、医学用語、地層、海底地形、彗星、小惑星、月面のクレーター、柔道、空手、武術、相撲、忍術、日本料理、芸能、歌舞伎、文楽、美術工芸、民芸、宗教、禅、漢方、はり、按摩、民俗、考古学など。かつては、geisha とか harakiri といった歴史と風物に関するものが中心であったが、今日では科学関係と経済関係が急増している。特に最近では経済・経営用語が目立つ。例えば、dango, keiretsu, endaka, karoshi, kaizen, nemawashi, wa, kanban, Nikkei などが一般化している。Newsweek や Time では、gaiatsu, mad ogiwazoku, amakudari, kanryo, kaisha ningen, tokkin, sogoshosha などが自由に使用されている。

このほか Nintendo, Sega, Walkman, Panasoic といった多くの日本の会社名や商標名が英語に取り込まれている。それらは普通名詞と同じように用いられる。特に、Nintendo はあらゆるコンピュータ・ゲームの代名詞となっていて、Nintendo neck (ファミコンなどのコンピュータ・ゲームのやりすぎによる肩こり) といった表現も生まれている。中には、homestay のように、日本語に借用された業界用語が戻りのように英語として一般化する例もある。和製の salaryman も「日本のサラリーマン」という意味で、完全に英語化している。



●ここには、本文中の各部門では扱っていない1990年代の主要外来語と略語を収めています。95年春には姉妹編の『カタカナ語・略語総解説』が発行されますので、やさしい外来語と専門的な外来語については、この新しい姉妹編の方を参照して下さい。

●本文では、流行の外来語、やや難解な外来語、93年度、94年度に登場した外来語を中心に収めてあります。その意味と使い方がわかるように、主要なものに用例と出典を添えました。

■略語・表記について

発音表記について：日本語における一般的な言い方に従い、v音=バ行、ti音=チ、di音=ジ、tu音=チュ、du音=ジュ、(ou)=オー、(ei)=エーの表記を原則としたが、慣用に従って用いられる形を示した。

見出し語について：五十音順とし、長音はその前の語の発音がア列のものはア、イ列=イ、ウ列=ウ、エ列=エ、オ列=オの重なりとした。アートはアートのよう。なお原語については、英米語は無表示、他の語はイタリア語→伊、オランダ語→蘭、ギリシャ語→希、スペイン語→西、ドイツ語→独、フランス語→仏、ラテン語→羅、ロシア語→露、中国語→中国、和製英語→*と表示した。

▶印のついたもの：主として、日本的な使用法と英語の表現の異なるものの説明を行った。

複数形について：英語からきた外来語の多くは、単数の形をあげてある。複数は、ズやスで終わっているので、それらを省いた形を引いてみる必要がある。たとえばツアーズはツアーで引き、ローンズはローンで引く。また、サウンズ(sounds)は、サウンド(sound)で引くというようにズをドに変えて引くと、求める語が見つかるだろう。

用例について：1991.9.7は1991年9月7日の意。用例中の()は原文の主語や文脈の補足を示す。なお、……は、引用の際の省略を示す。

♣マークについて：故事来歴のある言葉には、♣マークをつけ、見つけやすいようにした。

1995年外来語・略語年鑑